

# 校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

令和2年1月28日（火） 南日本新聞

本校の福祉科で訪問授業を行った井龍舞さんの「介護の世界少しでも理解を」が南日本新聞の「若い目」に掲載されましたので紹介します。

## 介護の世界少しでも理解を

介護福祉士

井龍 舞(30)

薩摩中央高校で、介護の会と県高齢者生き生き

の魅力を伝える訪問授業

を行った。若手介護職員

の会と県高齢者生き生き

推進課による取り組みで、メンバー数人が高校を回り、仕事内容や仕事に対する思いを伝えることが目的である。

私は事業所内で2年連続、新卒の新入職員の教育係をしている。高校生が気になっていることや不安に思っていることを、生で聞くことができ

る良い機会だった。介護職は夜勤やシフト制があり勤務は不規則

だ。入居者の事故や容体急変、死など責任は大きく、肉体的にも精神的にもつらいことが多い。私自身、悲しんだり後悔したりは常だ。「あの時、こうはできなかったか」と自問自答することが何度もある。

世間から少なからずマイナスイメージがあるこの仕事。養成学校が減り、福祉科に生徒が集まらないうこともあると聞く。そんな中で、これから福祉の道を歩もうと思っっている生徒たちは本当に貴重な存在であり、高い志に感心する。

授業を聴いてくれた生徒たちの何人が、介護の世界に入ってくれるのか分からない。少しでも参考になつて、仕事に対する考えが良い方向に向かつてくれたら幸いです。

(薩摩川内市)